

Kodak

ScanMate

i900 シリーズスキャナー



ISIS アプリケーション用
スキャンセットアップガイド

ISIS ドライバ用スキャンセットアップガイド

目次

[Scan Validation Tool] ダイアログボックス	2
イメージ設定の構成.....	4
[メイン] タブ	6
[レイアウト] タブ	8
[スキャン領域] ダイアログボックス	9
[イメージ処理] タブ	10
[ドロップアウト] タブ	12
[調整] タブ	13
[イメージの端を埋める] タブ	15
[ブランクイメージ検出] タブ	16
スキャナー設定の実行	17
[スキャナー] タブ	19
[重送検知] タブ	19
[バージョン情報] タブ	20

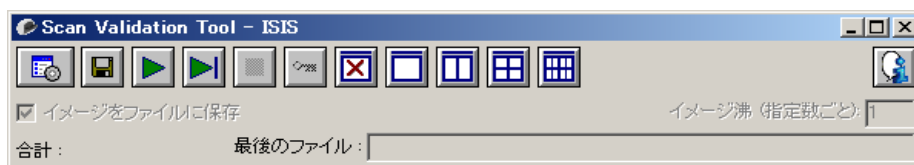
コダック ScanMate i900 シリーズスキャナーでは、イメージ処理機能によって、スキャン画像の画質を向上することができます。

イメージ処理とはそれぞれのイメージに対して給紙の傾き調整や不要な枠消し、イメージのノイズ除去などスキャン画像の質を自動的に向上させる機能のことです。

本ガイドには ISIS ドライバの使用手順やスキャナーの機能についての説明が含まれます。各機能は、ご使用のスキャンアプリケーションのユーザインターフェイスでも選択できます。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool (SVT) はコダックが提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインターフェイスを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool を使用すると、ISIS ドライバを使用してスキャナーの機能を検証できます。



[ツールバー] ボタン



セットアップ — 選択されたドライバ用のユーザインターフェイスを表示します。



保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、[**イメージをファイルに保存**] を選択した場合に利用できます。



スキャン開始 — 入力トレイにある原稿をスキャンをします。



1 ページスキャン — 1 ページだけスキャンします。



停止 — スキャンを終了します。



ライセンスキー — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



表示モード (画像なし) — イメージビューアウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



表示モード (1 画像) — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



表示モード (2 画像) — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



表示モード (4 画像) — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



表示モード (8 画像) — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。



バージョン情報 — Scan Validation Tool のバージョンを表示します。

イメージをファイルに保存 — 選択すると、指定したディレクトリにイメージが保存されます。

指定数ごとに表示 — スキャン中に表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべてのイメージを表示する場合は「1」を入力します。イメージを 10 個おきに表示する場合は「10」を入力します。

【合計】 — 現在の [Scan Validation Tool] (スキャン検証ツール) セッションでスキャンされた画像の総数を表示します。

- ISIS ドライバにアクセスするには、[Scan Validation Tool] ダイアログボックスの**セットアップアイコン**をクリックし、**コダックスキャナ**メインウィンドウにアクセスします。

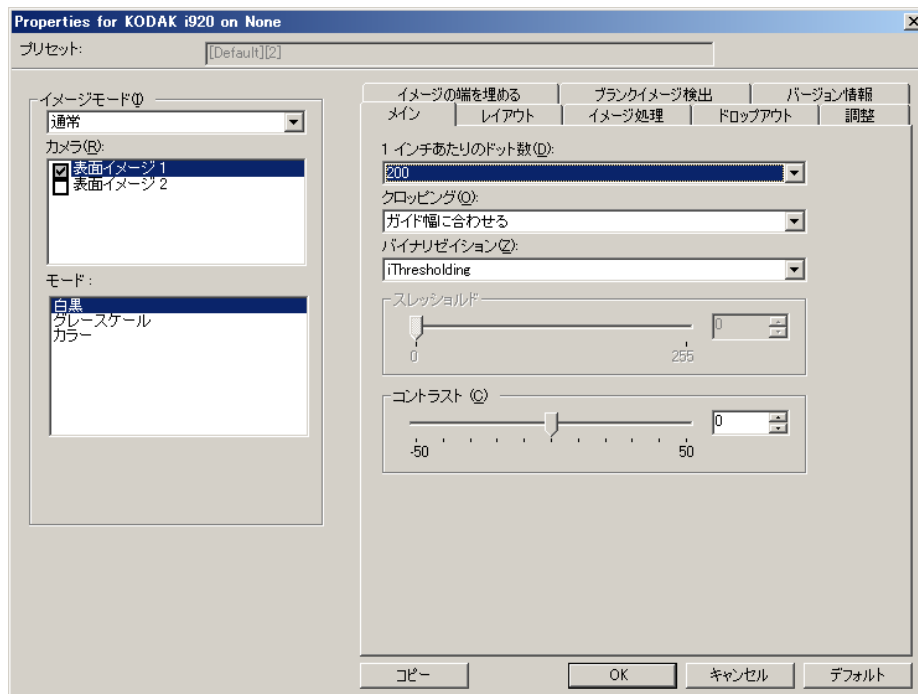
【最後のファイル】 — 最後に保存した画像の完全パスとファイル名を表示します。

イメージ設定の実行

ISISドライバのメインウィンドウには、イメージ設定に使用するデフォルトタブがあります。スキャンの目的やニーズに合わせて、これらのタブを使ってオプションを設定できます。

本章では、ISIS ドライバのデフォルトのインタフェースについて説明します。

注：（メイン、レイアウト、イメージ処理など）すべてのイメージタブでは**イメージモード**が選択可能です。



イメージモード — 次のいずれかのカメラオプションを選択します。

- **[カメラ]** — スキャン可能な面（表面および裏面）が一覧表示され、それぞれの面でイメージ処理値を定義できます。オプションには、**[表面イメージ 1]**、**[表面イメージ 2]**、**[裏面イメージ 1]**、**[裏面イメージ 2]**があります。

コダック スキャナーのドライバでは、カメラ設定を個別に設定できます。白黒イメージに適用される設定や、カラー／グレースケールイメージに適用される設定があります。

- **[モード]** — 次のオプションからいずれかを選択します。

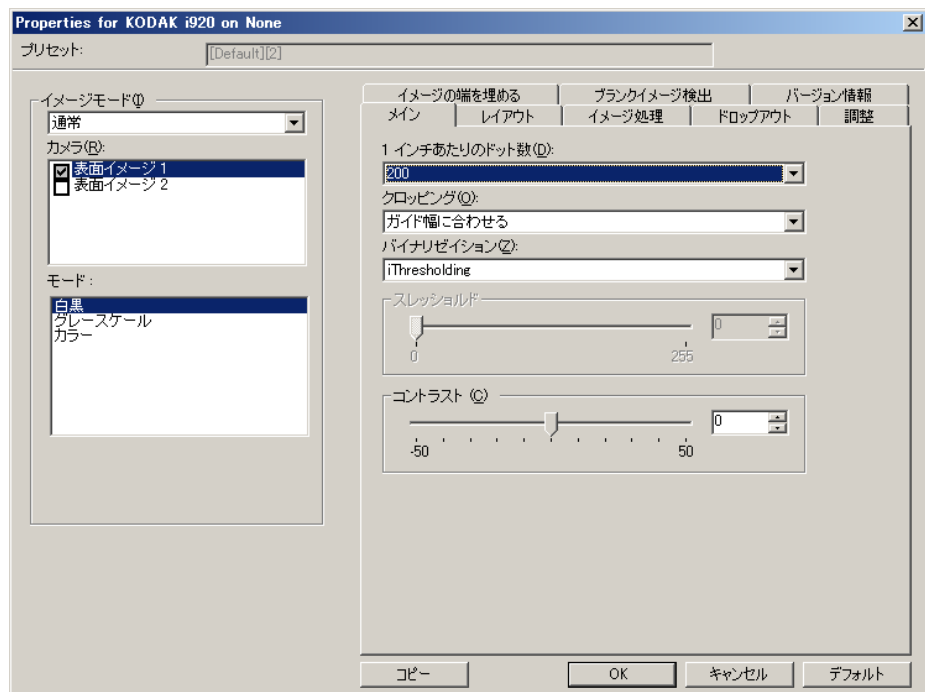
- **[白黒]**：白黒の2階調で構成したイメージを作成する場合に選択します。
- **[グレースケール]**：グレースケールでイメージを作成する場合に選択します。
- **[カラー]**：カラーでイメージを作成する場合に選択します。

【ボタン】— ウィンドウ下部にあるボタンは、すべてのタブに対して適用されます。

- **【コピー】**— 両面原稿をスキャンする場合に使用できます。片面のカラー、グレースケール、白黒イメージの設定を定義してから、**【コピー】**ボタンをクリックすると、その設定内容をもう一方の面にコピーすることができます。たとえば、**【表面イメージ 1】**を設定してから、**【コピー】**ボタンをクリックすると、その設定内容を**【裏面イメージ 1】**にコピーできます。
- **【OK】**— すべてのタブ上で設定された内容を保存します。
- **【キャンセル】**— 変更内容を保存せずにウィンドウを閉じます。
- **【ヘルプ】**— 選択されたウィンドウに示されているオプションについてのオンラインヘルプを表示します。
- **【デフォルト】**— タブの値をデフォルト設定に復元します。

[メイン] タブ

[メイン] タブには、以下のオプションがあります。



1 インチあたりのドット数 — スキャンする際の解像度を指定します。この設定はスキャンしたイメージの品質に大きく影響します。解像度を大きくすると、画質が良くなります。ただし、高い解像度でスキャンすると、スキャンに要する時間が長くなり、ファイルサイズが大きくなります。

ドロップダウンリストから解像度を選択します。デフォルトは 200 dpi です。解像度は 100、150、200、240、300、400、600、1200 dpi。

[クロッピング] — スキャン原稿の一部を切り取ります。クロッピングオプションは、カラー／グレースケール、白黒イメージですべて使用できます。表面と裏面のクロッピングを個別に設定できますが、同時出力スキャンの場合は、カラー／グレースケールクロッピングと白黒クロッピングを読み取り面ごとに同じ値に設定する必要があります。クロッピングオプションは、1 イメージに対して 1 つだけ適用可能です。次のいずれかのオプションを選択します。

- **自動**：イメージの端を基準に、異なるサイズに対してクロッピングウィンドウを動的に調整します。
- **自動 — 高画質**：イメージの端にある黒い外枠を除去します。これを選択すると、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。
- **ガイド幅に合わせる**：（同じサイズの前稿をまとめてスキャンする場合）イメージとして出力する領域を定義できます。[ガイド幅に合わせる]クロッピングは、用紙サイズとページレイアウトと組み合わせて、原稿を中央に揃えてスキャンする場合に使用します。中央揃えを使用しない場合は、[レイアウト]タブでスキャン領域を設定する必要があります。詳細については、本ガイドに後述の「[レイアウト]タブ」を参照してください。

- **ドキュメントに合わせる**：(ゾーンプロセッシング)：(同一サイズの複数ページの原稿に使用)：ゾーンプロセッシングは、原稿の左上隅からレイアウトを設定する浮動固定クロップウィンドウ(ゾーン)です。そのゾーンをカラー／グレースケールで処理するか、白黒で処理するか選択できます(白黒とカラー／グレースケールを別のウィンドウに定義することもできます)。パラメータは、イメージの表面と裏面でそれぞれ選択できます。

このオプションは、ある部分をカラー／グレースケールまたは白黒で別々に保存したい場合、自動クロッピングと同時に使用します。写真、署名、エンボス(浮き出し)、印章など、対象となる部分が一定の場所に配置されている場合に大変効果的です(対象の小さい部分をカラー／グレースケールでスキャンし、残りの部分を白黒でスキャンする場合など)。ゾーンを定義するには、[レイアウト]タブを選択します。

[バイナリゼーション]— これらのオプションは、グレースケールイメージに適用され、白黒のイメージを出力します。背景色や濃度が異なっていたり、前景情報の色や濃度が異なっても、背景情報から前景情報を区別できるところに特長があります。同じ画像処理パラメータを使用してさまざまなタイプの原稿をスキャンでき、優れたスキャンイメージを得ることができます。

- **iThresholding**：高品質のイメージを生成するために、原稿を自動的に識別して、最適なしきい値(スレッシュホールド)が決定されます。単一の設定で画質が異なる原稿(文字のかすれ、濃淡のある背景、カラーの背景など)をスキャンすることができ、原稿を仕分けする手間を省くことができます。iThresholdingを使用する場合は、[コントラスト]のみ調整可能です。
- **固定処理 (FP)**：白黒の原稿やその他のコントラストの高い原稿に使用します。
- **アダプティブスレッシュホールド (ATP)**：イメージの前景情報(文字、グラフィック、線など)を背景情報(白または用紙の背景色)と区別します。

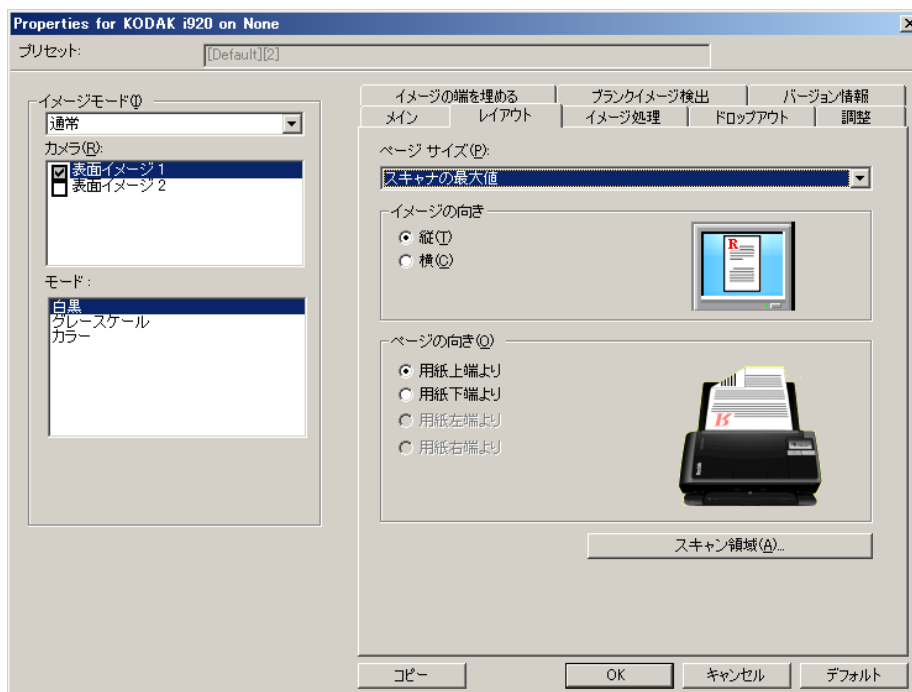
しきい値：カラー／グレースケールイメージ中の白の量を変更します。スライダを使って、0 ～ 255 の範囲の値を設定してください。デフォルト値は 90 です。

コントラスト：白黒の明暗の差を調整し、イメージをシャープにしたりソフトにします。

[コントラスト]を低く設定すると、白黒の明暗の差が小さくなり、ソフトなイメージになります。[コントラスト]を高く設定すると、白黒の明暗の差が大きくなり、シャープなイメージになります。**-50 ～ 50**までの値を選択します。デフォルト値は 0 です。

[レイアウト] タブ

[レイアウト] タブには、以下のオプションがあります。



[ページサイズ]— スキャナーが最初に選択されたときのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから各用紙サイズを選択できます。**[自動]**または**[アグレッシブ]**クロッピング オプションを使用する際は、用紙サイズをスキャナーの最大値に設定する必要があります。

イメージの向き

- **縦**：通常の縦長の向きにイメージを表示します。
- **横**：横長の向きにイメージを表示します。

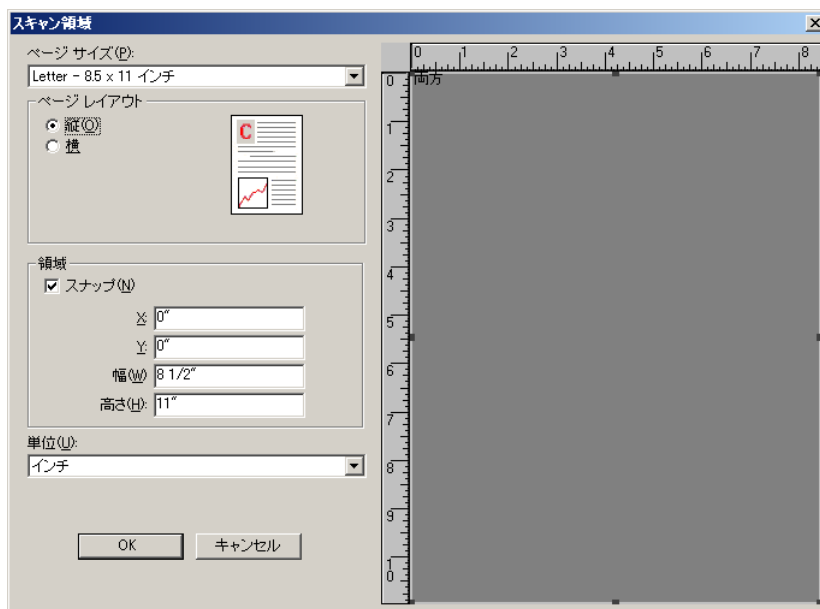
ページの向き — スキャナーにセットする原稿の向きを選択できます。**[用紙上端より]**、**[用紙下端より]**、**[用紙左端より]**、**[用紙右端より]**のいずれかを選択します。

[スキャン領域] — **[スキャン領域]** ダイアログボックスを表示します。**[スキャン領域]** オプションは、クロッピングオプションが**[ガイド幅に合わせる]**または**[ドキュメントに合わせる]**に設定されている場合に利用できます。詳細については、「**[スキャン領域]** ダイアログボックス」を参照してください。

[スキャン領域] ダイアログボックス

[スキャン領域] ダイアログボックスを使用して、コンピュータへ送信される画像データの量を定義できます。

注：選択したクロッピングオプション（[ガイド幅に合わせる] または [ドキュメントに合わせる] ）に基づき、[表面イメージ #1]、[表面イメージ #2] などをハイライトして、定義する面とイメージを選択します。すべてのカメラ選択項目に対して定義されたスキャン領域は、それぞれ独立しています。



[原稿サイズ] — スキャナーが最初に選択された時点でのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストからさまざまな用紙サイズを選択できます。

注：[用紙サイズ] と [ページレイアウト] は、[レイアウト] タブにも表示されます。[スキャン領域] ダイアログボックスで設定を変更すると、[レイアウト] タブにも変更内容が反映されます。逆の場合も同じです。

ページレイアウト

- 縦：通常の縦長の向きにイメージを表示します。
- 横：横長の向きにイメージを表示します。

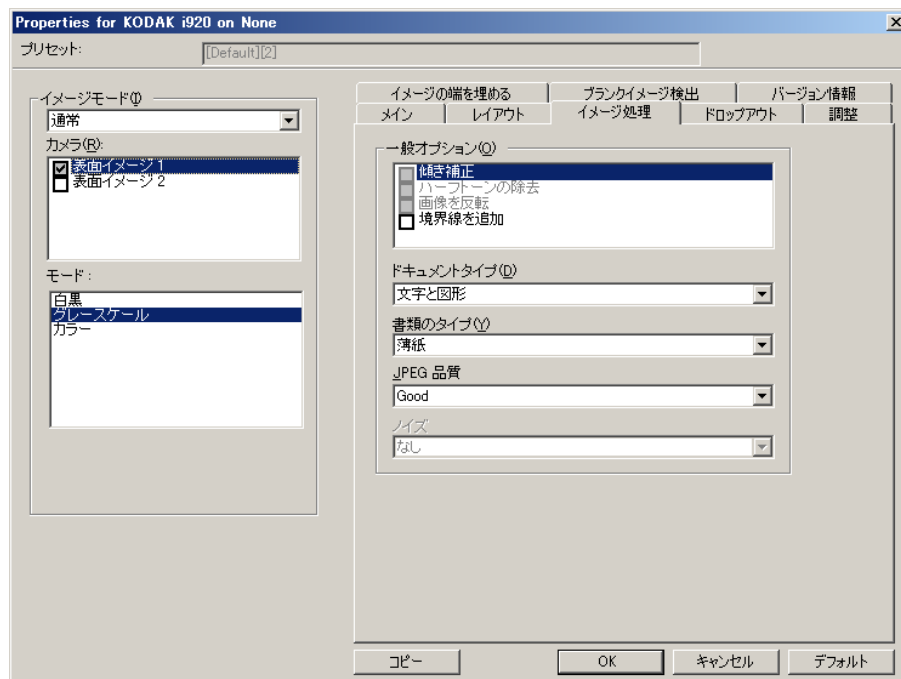
領域

- スナップ：プレビューエリアの領域を 1/8 インチ単位で制御する場合に、このオプションを有効にします。このオプションは、ピクセルモードでは無効になります。
- X：スキャナーの左端からスキャン始点の横位置を設定します。
- Y：スキャナーの上端からスキャン始点の縦位置を設定します。
- 幅：スキャン領域の幅を設定します。
- 高さ：スキャン領域の高さを設定します。

単位 — 領域定義する単位を [ピクセル]、[インチ]、[センチメートル] から選択します。

[イメージ処理] タブ

[イメージ処理] タブには、以下のオプションがあります。



一般オプション

- **[傾き補正]**：原稿の先端の ± 0.3 度以内の傾きが自動的に補正されます。自動傾き補正では、最大 45 度までの傾きを検出し、200 dpi で 24 度まで、300 dpi で 10 度まで補正できます。**[ガイド幅に合わせる]** または **[ドキュメントに合わせる]** オプションが選択されている場合、このオプションは利用できません。

注：イメージデータの損失を防ぐために、原稿の四隅が搬送路内側に収まっていることを確認してください。

- **[ハーフトーン除去]**：ハーフトーンスクリーンを使って、点描画の文字やイメージ、濃淡のある背景やカラーの背景を持つイメージ品質を高め、ハーフトーンスクリーンにより発生したノイズを効果的に除去します。
- **[画像を反転]**：黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

注：ご使用のアプリケーションがイメージデータの解析／処理を誤り、希望とは異なるイメージが保存される場合は、このオプションで対応できます。

- **[境界線を追加]**：イメージの上下左右に、外枠を追加します。

ドキュメントタイプ

- **文字**：文字原稿の場合に選択します。
- **文字と図形**：文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **写真**：原稿は主に写真で構成されます。

書類のタイプ — スキャンする用紙の素材や重量に基づいて、いずれかのオプションを選択します。利用できるオプションは、[**普通紙**]、[**薄紙**]、[**光沢紙**]、[**カード紙**]、[**マガジン**] です。

JPEG 品質 — JPEG 圧縮を選択した場合、いずれかの品質オプションを選択します。

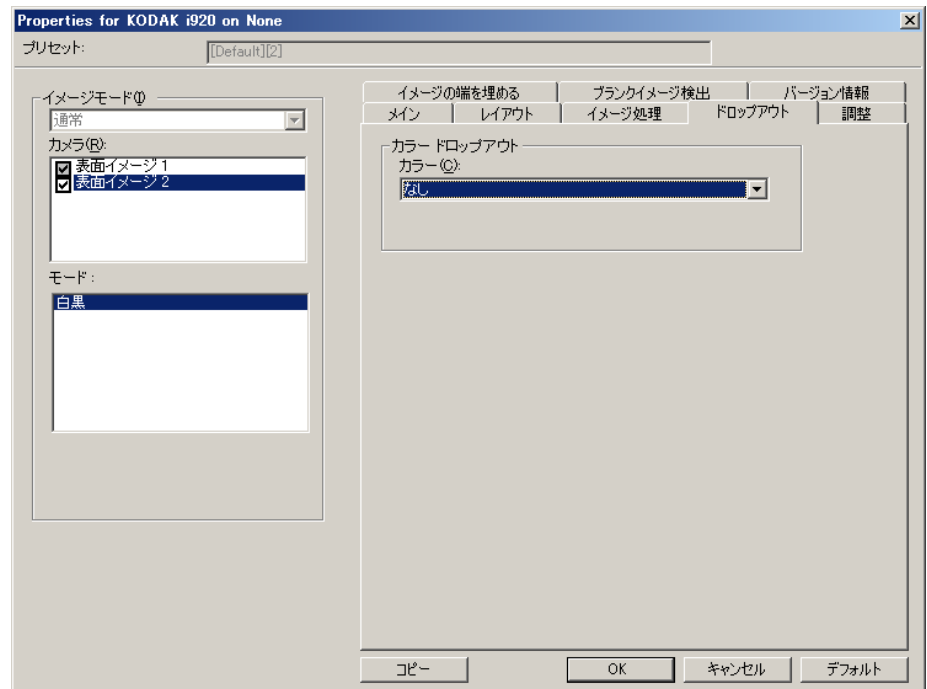
- **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
- **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
- **高**：一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
- **最高**：小さい圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
- **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

ノイズフィルタ

- **(なし)**：ノイズフィルタを実行しません。
- **孤立点除去**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティルール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

[ドロップアウト] タブ

[ドロップアウト] タブには、以下のオプションがあります。

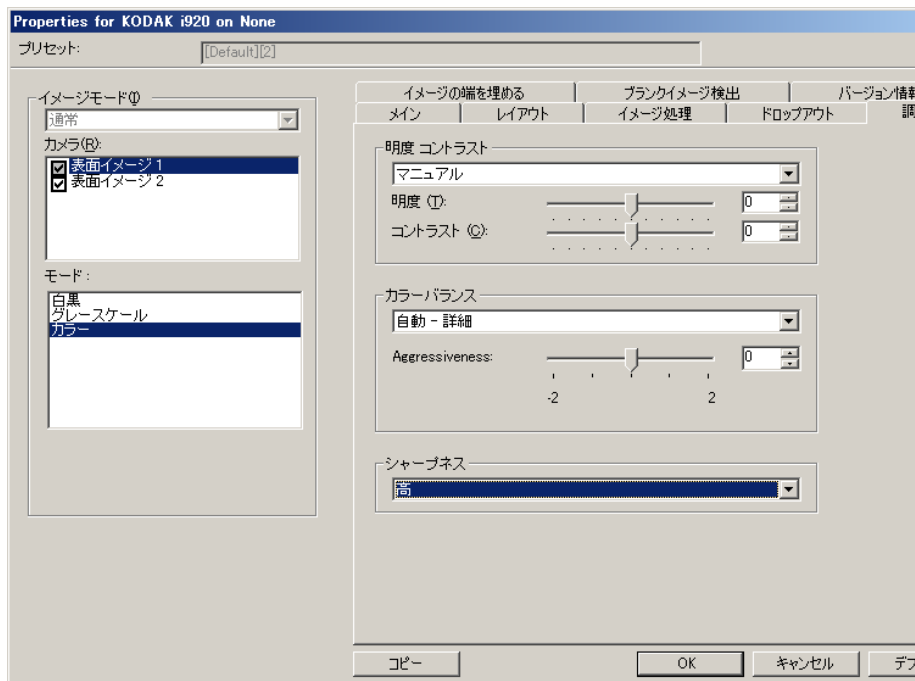


[ドロップアウト] タブは、フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームのラインとボックスを削除）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールの原稿は、これらの設定に影響を受けます。

カラードロップアウト—i920 スキャナーは赤、緑、青をドロップアウトできます。[なし] がデフォルトです。

[調整] タブ

[調整] タブには、以下のオプションがあります。



明度 コントラスト

- (なし) : ノイズフィルタを実行しません。
- 手動 : すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - ブライツネス - カラー／グレースケールイメージ中の白の量を変更します。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は 0 です。
 - コントラスト - イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は 0 です。

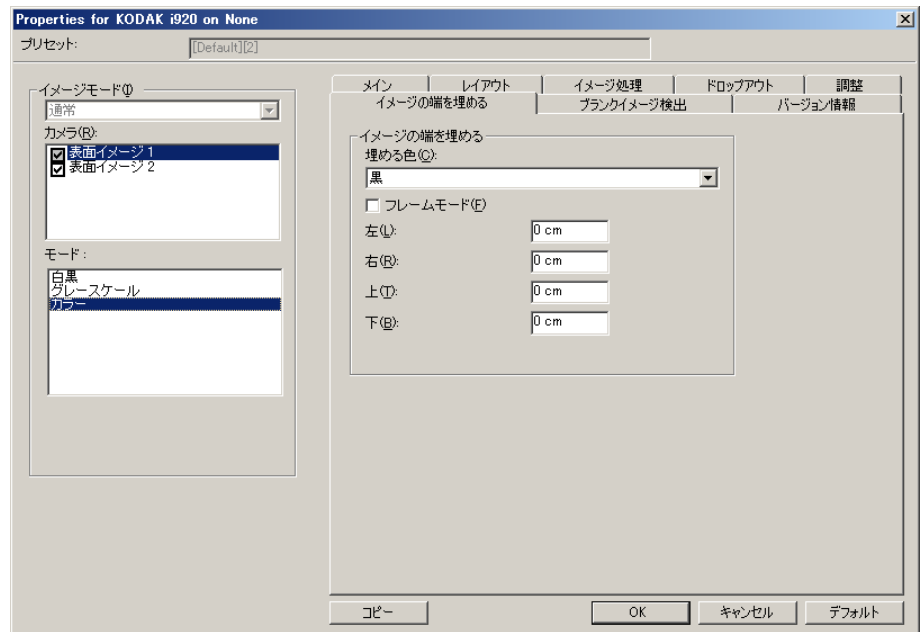
カラーバランス (グレースケールでは無効です)

- (なし) : ノイズフィルタを実行しません。
- 手動 : すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - 赤 - カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は 0 です。
 - 緑 - カラーイメージの緑の量を変更します。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は 0 です。
 - 青 - カラーイメージの青の量を変更します。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は 0 です。

- **自動**：各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。このオプションは写真に対して使用しないことを推奨します。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定したい上級者向け。
 - **強度** - 差異の度合いを調整できます。値を大きくすることで、古くなり黄ばんだ原稿に対応することができます。値の範囲は、[-2] から [2] です。

シャープネス — イメージ内の境界線のコントラストを増やします。次のオプションを選択できます。**標準**、**高**、**強調**が指定できます。

イメージの端を埋めるタブ [イメージの端を埋める] タブには、以下のオプションがあります。



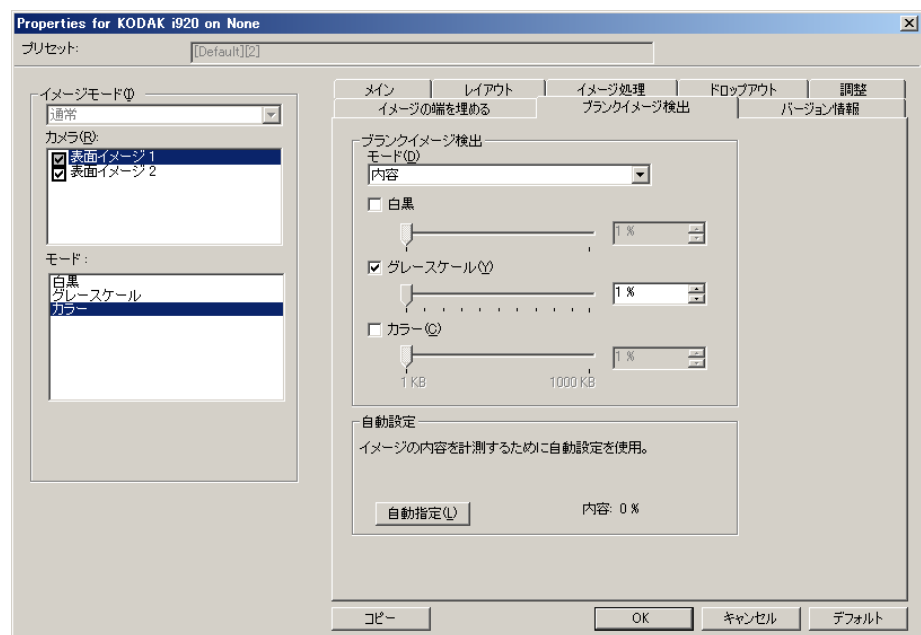
イメージの端を埋める — 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

注：イメージ端埋めを使用する場合は、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

- **色埋め**：端を埋める色を選択できます。
 - （なし）：イメージの端を埋めません。
 - 白：イメージの端が白色で埋められます。
 - 黒：イメージの端が黒色で埋められます。
- **フレームモード**：[イメージ端埋め] オプションで選択された色と等しい量で、イメージのすべての辺を埋めます。または[左]、[右]、[上]、[下]に値を指定して、スキャンしたイメージの各辺の埋める量を指定することもできます。

[ブランクイメージ検出] タブ

[ブランクイメージ検出] には、以下のオプションがあります。



白紙イメージ検出 — スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

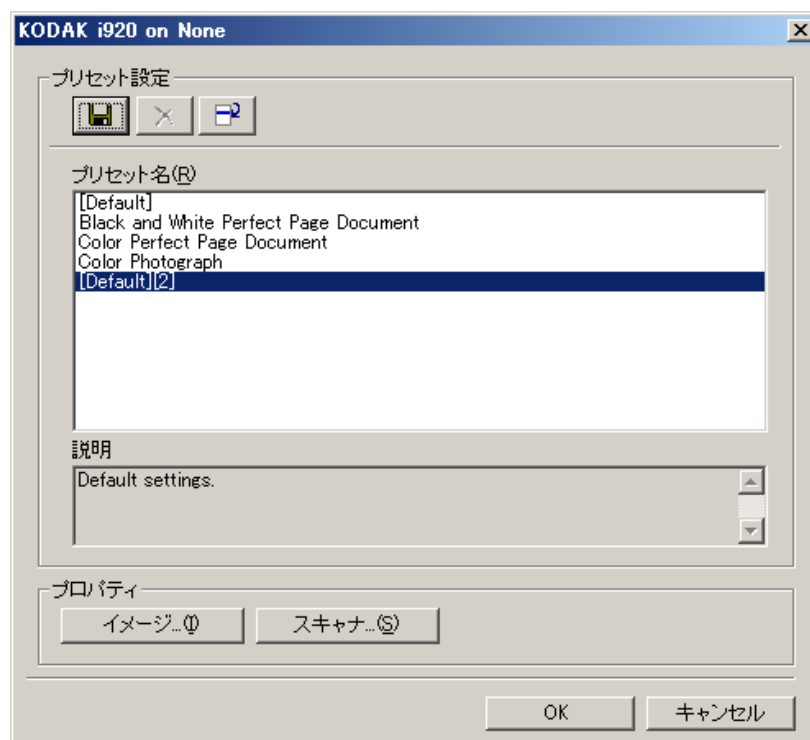
- **オフ**: すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **サイズ**: スキャンアプリケーションに送信されるイメージのサイズに基づいて、(他のすべての設定が適用された後に) 白紙であるかどうか判断されます。イメージが白紙と判断されるイメージのサイズ (KB) を指定します。設定値未満のサイズのイメージは作成されません。このオプションを使用する場合は、削除するイメージの種類 (白黒、グレースケール、カラー) ごとに白紙と判断されるイメージサイズを指定する必要があります。これらのフィールドに値を入力しない場合は、すべてのイメージが保持されます。
- **内容**: イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。白黒、グレースケール、カラーを選択し、スキャナーが白紙と判断する最大の内容量を選択します。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、[0] から [100] です。

自動設定 — スキャンされる原稿にもとづいてスキャナーが内容量を判断します。この機能を使用するには、**自動設定**をクリックします。

注: 自動設定モードは表面と裏面の両方で同時に適用できません。適用する面を選択する必要があります。

スキャナー設定の実行

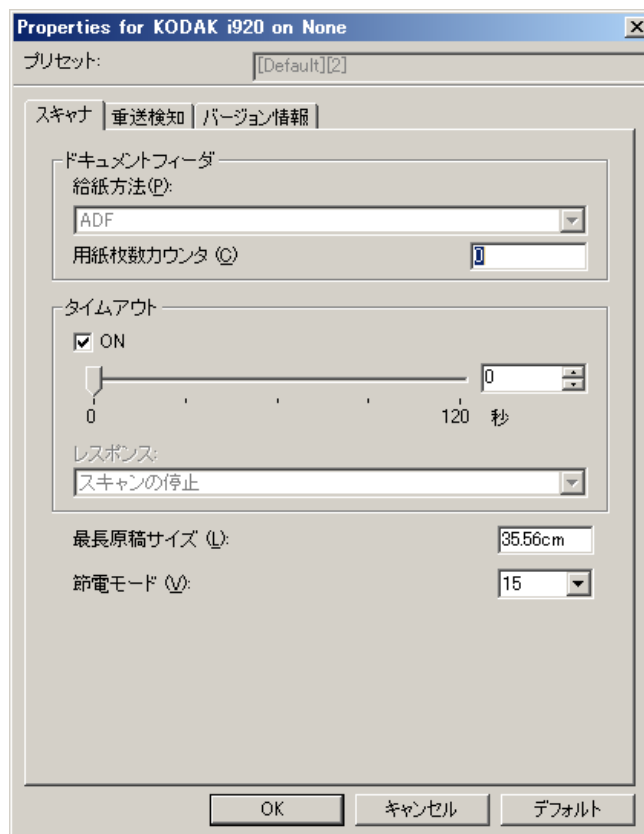
ISIS ドライバからスキャナー設定を開くには、Scan Validation Tool を前述の手順で開き、ISIS ドライバにアクセスします。



- スキャナーをクリックして、スキャナーを設定できます。以降の章ではスキャナー設定の詳細や手順について説明します。イメージ設定の手順については、前述の「イメージ設定の実行」の章を参照ください。

[スキャナー] タブ

[スキャナ] タブには、以下のオプションがあります。



ドキュメントフィーダー

給紙方法 : ADF — スキャナーは入力トレイからのみ原稿をスキャンします。

用紙枚数カウンタ — スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。スキャナーによってカウントアップされ、イメージヘッダに送られます。

タイムアウト

- **[オン]** : 最後の原稿がフィーダーに入り、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を秒単位で選択するには**[オン]**をクリックします。
- **レスポンス** : タイムアウトになったときに実行するアクションを指定します。**スキャン停止**のみが選択可能です。タイムアウトになった場合、スキャンは停止されジョブが終了されます。

最長原稿サイズ — 原稿セット内で最長の原稿サイズの値を設定します。

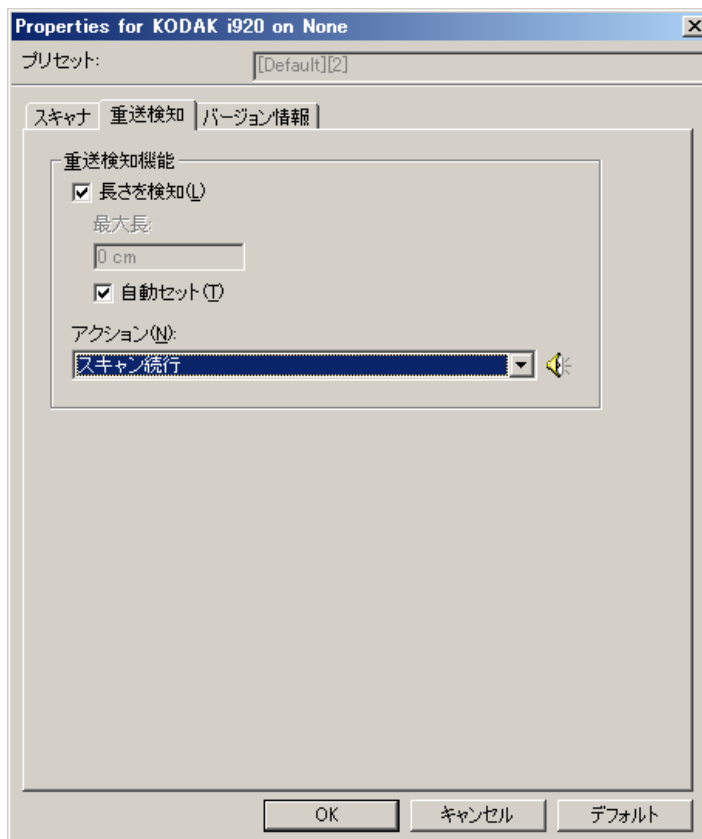
注 :

- **[モード]** と **[解像度]** によっては、原稿の長さが制限される場合があります。
- 長尺原稿の場合は、スキャナーの処理能力が低下する場合があります。

節電モード — スキャナーが操作されていないときに節電モードに移行するまでの時間を設定できます。

重送検知タブ

[重層] タブには、以下のオプションがあります。



重送検知

長さを検知 — このオプションは長さによる検知の有効／無効を切り替えることができます。デフォルトは無効です。有効にした場合は、重送検知機能が無効になっているときにスキャンできる原稿の長さの最大値を設定します。同じサイズ of 原稿のスキャン時に重送を調べるため、長さ検出を使用します。たとえば、8.5 x 11 インチ (A4) の原稿を縦でスキャンする場合は、[最大長] フィールドに 11.25 インチ (28.57 cm) と入力します。

- **自動セット**: 現在選択されている用紙サイズより 0.50 インチ (1.27 cm) 長い値を自動的に最大の長さとして設定します。

アクション — 重送を検知した時のスキャナーの動作を選択します。設定はスキャナーに保存されます。

- **スキャンの続行**: スキャナーはスキャンを継続します。スキャナーはユーザが重送用に設定した音を鳴らします。

注: **スピーカーアイコン**をクリックすると、[開く] ダイアログボックスが表示され、アラーム用の警告音 (.wav ファイル) を選択できます。

[バージョン情報] タブ

スキャナとドライバに関する情報が表示されます。

